

さ ざ ん か

第 115 号、2011 年 6 月

確かに日本にも雨季があるのだなあ、と実感できる今年の梅雨の雨の降り具合です。四季折々、梅雨そのものは日本の季節の中でその役割としては重要な位置を占めているのですが、こうも雨が多いいささかうんざりしてしまいます。しかし、それだけまた梅雨明けの夏のからっとした空気が待たれるのでしょうか、夏は夏でまた昨年並みだとすると熱中症で 1000 人以上の人がなくなるという、これまたうんざりしそうな雰囲気でもあります。世の中、節電ブームです。東京電力管内の首都圏とかそちらばかりかと思っていましたが、意外にここ九州電力管内でも電力不足に陥る可能性があるとか。

休止中の原発が再開できないのが主な原因のようですが、これまでいかに無意識に原子力発電に頼っていたかということが分かります。それにしても、今さらながらではありませんが、原発があるところはその地域の中核からは離れているところばかりですね。九州も佐賀と鹿児島にあるという事実には何か引っかかるものを感じないでもありません。まあしかし、福島がもっと東京に隣接していればいま頃はこんな騒ぎでは収まらなかったろうと考えるとリスクマネジメントの面からはやはり大都市から離れたところに原発をつくったのは正解と云えるのかもしれませんが。原発といい米軍基地問題といい、いずれもお金（補償金など）が重要な要素であることは寂しい事ではあるけれど、現実的にはお金で解決するしかないのか、とも思います。

東北の復興も結局はおカネ次第であると考え、いかにお金（税金）を大切に、有効に使うかということが政治の大きな役割だと分かります。一方で、いまの政治のありようを見ると多くの国民がしらけてしまうのもまた仕方のないことなのでしょうか。

梅雨明け、猛暑と続きます。みなさん、特に高齢の方々はくれぐれも体調管理に気をつけてお過ごしください。

俳句

西屋敷喜美子

節電を 忘れてをりぬ 走り梅雨

やはらかき 空豆を食む 老い二人

さまざまの 思ひ巡らす 菖蒲の湯

病院からのお知らせ

*5月10日から念願の電子カルテシステムが本稼働いたしました。みなさまには直接的なメリットはなく、むしろ診療側からの新たな体制ですので、短期的には特に外来での待ち時間が長くなるなどの混乱があるかもしれませんが、長期的には今より待ち時間等お含め外来診療も改善されるはずですので、ご不満をかんじておられる方もいましばらくお待ちください。特に受付業務ではこれまでよりご不便をおかけしているようです。申し訳ありません。電子カルテシステムによりこれまでよりもデータの保存、過去との比較などでは紙カルテよりはるかに確実に、容易になりますのでより質の高い診療が出来るものと期待しております。

*4月から新しい医師が赴任し、すでに大活躍しております。

古別府 裕明

樋ノ口 真

中野 賢二

永山 純（研修医）

よろしく願い致します。

*肺炎ワクチンの予防接種を行っております。ご希望の方は各科外来に申し出てください。予約制になっております。

*亜急性期病床は20床分準備してあります。リハビリテーション中心で少し入院期間が長くなりそうな方向けの病室です。ぜひご利用ください。

なお、ご参考までに、当院の一般の方の平均在院日数は20日前後です。

*骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。

骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみたいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。

骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

*MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

*MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。

* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします

近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

* 肝臓病、糖尿病、脳神経外科、難病などの特殊外来は診察日が決まっておりますので、診察希望の方はあらかじめご確認ください。

短歌 瀬戸よし子

校庭に 一本残りし大櫨 逆光線に 絵となりて立つ
つんつんと 伸びし藪茶の芽をつみて 一人で仕上げし 新茶一服

震災から学ぶ パート3 カラーマン（とその女）

震災からずいぶん経ったが、いまだに被災地の状況は変わらずか、更に悪化していると伝える報道が多い。とりあえず、自分の命が助かって良かった。とりあえず、家族も無事でよかった。とりあえず、避難所に行けて良かった。とりあえず、食べ物があって良かった。とりあえず、毛布があって良かった。少しずつではあるが時間と共に、どん底から立ち直るべく「とりあえず、良かった」が増えていかなければならないはずである。

しかし現実はどうもそうはなっていないらしい。悪夢の震災から、現実に戻ったときに待ち受けているのは「生活」である。その生活を支えるのに必要なアイテムは「お金」である。それなのに、義援金がまだ 2, 3 割しか利用されていないというニュースを聞き、あきれ、そして怒った。お金はあるだけでは何の価値もないただの上等なただの紙の印刷物に過ぎない。お金は必要な他の価値と交換してこそ、ただの印刷物ではなくなるのだ。200 万枚以上も紙を保存している間に、被災者の一部には「お金」がないために「命」すらも失いかけない状況が発生している。（倒産や借金に悲観しての自殺など）

義援金をした人達の気持ちが伝わらないまま塩漬けされて眠っている事実は何とも悲しいものだ。いま、政争に明け暮れる政府や中央官僚の人たちのあまりの誠意のなさが問われてもやむを得まい。

（その政局を大ニュースとして報道するマスコミにも頭に来るわねえ。報道せずに放っておけばいいのに。不信任案が出ようが、出まいが、その案に誰が賛成しようが反対しようが、国民の関心はそこにはないことが分からないのかしら。あるいは、知っててやっているのかしら。）

ところで、震災で被害にあった人とか、亡くなった人はまさか自分がこういうことに

なるとは思ひもしなかったことであろう。

他人ごと、つまりスマトラ沖地震とか明治時代の三陸津波とか、そういうことは知ってはいてもまさかわが身に降りかかるとは考えもしなかったであろう。

(まあ、そういうことを考えて日々暮らしている人は相当神経質か被害妄想的な人なのではないのかしら。杞憂の故事と似たようなもので、周りからみたらちょっとかわいそうになるような人たちだわね。そんなこと心配してどうすんのよ！てね。)

国とか自治体はそういうことを心配しなければならないけど、個人ではなかなか心配しても一人で出来ることがないから、多くは政治にそれを委ねるということだろう。

(まあ、そういう意味では政治に委ねそになったというか、完全に原発問題では騙されちゃたわね。でも、選挙で民主党に政治を委ねたのは我々国民だから、見方によっては国民の自業自得と云えない事もないのかしらね。)

まさか自分がとか、自分だけは大丈夫だ、とかいうが、よくよく考えると実は知らず知らずにすでにその災厄はわが身に起こっていたという事実、最近ふと気が付いた。それは、まさか自分がこの年齢になるとは思わなかったということだ。自分が小学生の頃は、中学生ははるか次元の違う人種にみえた。自分が中学生になると、高校生がとても大人にみえた。

でも、中学生になった自分は小学生とは次元の違う世界にいるということにはなかったし、高校生になっても大人になったとは全く実感しなかったし同級生も大人と云うよりもみんな子供であった。

子供の時に見た大人は、多くの知識があり、世間を良く知り、むやみに感情におぼれることなく、非常時にも正確な判断力をもつ立派な人間に見えた。

昔、仰ぎ見た40歳代の上司は、落ち着いて分別に満ちた大人であった。まして老人はこの世の中の沢山の試練を乗り越えてきて、知識があろうとなかろうと(学歴が有ろうとなかろうと)、それなりのものを身に着けある意味仙人的なニュアンスや縁側に腰掛けて日向ぼっこしながらお茶を飲むおばあさんのようにどこか世間を卓越した人間のような印象があった。

昔のじいちゃん、ばあちゃんは(あまり根拠はないのだが)尊敬すべき、場合によっては畏怖すべき存在であったように思う。

時はながれ・・・まさか、自分がこの年になるとは思ってもみなかった。しかも、見た目はともかく、中身は小学生の時とほとんど一緒じゃないか。大人の分別も、知恵も、

懐の深さも何にもないではないか。自分がこの年のとき、父はかなりしっかりしていたようにみえたけど、実はそうでもなかったのか。彼に父親の権威を感じたけど、それは虚偽のものだったのか。

(女もそうね。あたしの年に母はもう 2 人の子持ちだったとはね。何となく信じられない気がするわね。母は強し、ていうけれど、あたしの廻りの母になっているお友達はともそういうイメージはないわあ。この子、本当に母親として大丈夫かしら？て思うことの方がおおいもの)

世の中全体が幼稚になったのだと思う。坂元竜馬はじめ幕末の志士はほとんどが、今でいうそこら辺のニイチャン達の年齢である。50 歳に満たないときから、西郷隆盛は西郷「翁」である。40 歳代で隠居する武士は普通の事であったようだ。平均寿命が倍近くになったのだからそれはある程度仕方ないにしても、それでも全体が幼稚すぎないだろうか。あるいは、幼稚という言葉で表現するからまずいのだろうか。

こじつけるとすれば、価値観が多様化した、選択肢が増えたということかもしれない。幸せのカタチが多種多様になったこととも関係あるのか。
(結婚した幸せ。結婚したゆえの不幸。子供を持つ幸せ、子供と持ったゆえの不幸。働ける幸せ、働きすぎた故の不幸。長生きできる幸せ、長生きしたゆえの不幸。まあ、世の中いろいろね。さしずめあたしは、美しすぎるゆえ、いまだ独身で。貧乏なのかわ！)

余裕ができたというべきか。死が身近にあり、立派に死ぬことが唯一で、かつ最高の価値であった時代との違いはそれだろうか。

いつか、だれもが必ず死ぬ運命の人間は、ゆっくりと時間をかけて自殺をしているようなもんだ、などと訳の分からない喩があるが、まあ、年を取るということはそういうことなのかもしれない。

確実に衰退に向かって日々を過ごしているのは、そうだろう。それでも、人間はそれを自分の事としてとらえることは意外と難しい。自分だけは・・・・

震災で生き残った人々と同様に、この年まで生きて来た自分を他人事としてみてみると不思議な気もするが、現実がいまこうしてここで生きていることに、そしてよくここまで生きてきたと感慨を持てることに感謝しなければならないと思うのである。そして、残りの人生を腹を括って生きていきたいと思う。まあ、やけくそで生きていこうということだ。

やけくそで生きる、達観して生きる、神の名のもとに生きる、あきらめて生きる（五木寛之に言わせると、「明らかに究める」ことがあきらめるということだ）、淡々と生きる、夢を追及して生きる。どれも結局は同じことのような気がする。違いが出てくるとすれば、それはお金に振り回される人生か、お金を上手く使いこなす人生かということではないだろうか。

（お金があっても幸せになれないけど、お金がなければもっと幸せになれないのが悲しい世の中だね。年を取って働けなくなったとき、年金制度が崩壊していれば救われな
いものね。世の政治家さん達、しっかりしてくださいな。）

大漁 金子みすゞ

朝焼け小焼けだ
大漁だ
大羽鯛の
大漁だ

浜は祭りの
ようだけど
海の中では
何万の
鯛のとむらい
するだろう。

編集後記

さざんか 4月号に「北薩病院の庭園」というエッセーを投稿していただいた坂元詮先生が病気のためなくなられました。昭和61年、旧療養所から新生北薩病院として新築移転したとき病院の設計をほとんど坂元先生が主導したという話は聞いていましたが、建物以外の庭とその木の選定までやっておられたとは知りませんでした。樺、桜、南京ハゼ。すっかり病院の象徴となっています。クリニックを閉鎖してまでの闘病生活最後の時期に、突然、しかも全く初めての投稿を下さったのは何か意味があったことだと推測しますが、いまとなっては分からないままです。北薩病院に対する先生の深い思いは感じることが出来ます。ただただ、ご冥福をお祈りいたします。(KT)